



2018年(平成30年)

9月13日発行

Vol.21

志摩市応援倶楽部 志摩びとの会事務局
〒517-0592
三重県志摩市阿児町鶴方 3098-22 志摩市役所総合政策課内
TEL: 0599-44-0205 FAX: 0599-44-5252
e-mail: shimabito@city.shima.mie.jp
HP: https://www.city.shima.mie.jp/kakuka/shimabitonokaijimukyoku/index.html

～事務局通信～

この度の災害で亡くなられた方々にお悔やみ申し上げますとともに、甚大な被害を受けられた皆様に対して、心よりお見舞い申し上げます。

今年の「志摩びとだより」は、表面にトピックス、裏面には前回の発行からこれまでの間にあった出来事を、月ごとにピックアップしてお届けいたします。

また、会員の皆様からの情報提供も随時募集しておりますので、ご協力いただける方は事務局までご連絡ください。

志摩びとの会 大阪交流会 参加者を募集します!

「志摩びとの会 大阪交流会」を、昨年度に引き続き大阪三重県人会様主催の「関西三重県人の集い」との共催で開催します!

志摩市では昨年同様に会場内に展覧ブースを設け、志摩市のPRを行います。

日時: 10月20日(土) 午前11時30分～午後2時頃終了(予定)
※午前10時30分 受付開始

会場: シェラトン都ホテル大阪 4階「浪速の間」(大阪市天王寺区上本町6-1-55)

会費: 8,000円(当日支払)

申込締切: 9月21日(金) 必着

●問い合わせ先●

志摩市役所 総合政策課 地域活性化係
TEL: 0599-44-0205
FAX: 0599-44-5252

志摩市地域おこし協力隊が着任しました!



平成30年4月25日に、地域おこし協力隊の委嘱状交付式がありました。

地域おこし協力隊とは、都市部等から人材を積極的に受け入れ、地域力の維持・強化を図っていく事を目的とした制度です。

佐藤典幸さん(左から2番目)は空き家を活用した島の活性化のため磯部町渡鹿野地区へ、寺口哲弘さん(右から2番目)はカキ養殖後継者として磯部町の矢地区へ着任しました。

●問い合わせ先●

空き家を活用した島の活性化
志摩市役所 総合政策課 地域活性化係
TEL: 0599-44-0205
FAX: 0599-44-5252
カキ養殖漁業後継者
志摩市役所 水産課 水産振興係
TEL: 0599-44-0289
FAX: 0599-44-5262
いちご、芋農家後継者
志摩市役所 農林課 農業振興係
TEL: 0599-44-0288
FAX: 0599-44-5262

現在4名の協力隊が活動中!



隊員名: 犬塚浩志

活動内容: カキ養殖漁業後継者

ひと言: 昨年9月末に東京から移住しました。好物のカキを自分で養殖するとは夢にも思っていませんでしたが、この冬には早速1生産者としてカキを出荷します。的矢の自然や人々とのふれあいを通じて、充実した日々を過ごしています。



隊員名: 寺口哲弘

活動内容: カキ養殖漁業後継者

ひと言: 今年4月から磯部町の矢でカキ養殖の勉強をしています。早いものでもう5ヶ月経ちました。まだまだ分からない事だらけで、的矢の皆さんに色々とお助けしてもらっていますが、これからも頑張っていきたいと思います。



隊員名: 大野雄哉

活動内容: いちご、芋農家後継者

ひと言: 今はイチゴの生産が中心ですが、これからは志摩のいいところを見つけてどんどん情報発信していきます!

Instagramで情報発信中!
@oono shima



隊員名: 佐藤典幸

活動内容: 離島で空き家を活用した島の活性化

ひと言: 空き家をどのように有効活用するか日々悪戦苦闘していますが、やりがいのある仕事なので頑張っています。

Facebookで情報発信中!
「渡鹿野島ノンビリ離島暮らし」

ふるさと応援寄附にご協力をお願いします。



★ふるさと応援寄附とは?★

自分の選んだ自治体に寄附(ふるさと納税)を行った場合に、寄附額のうち2,000円を超える部分について、所得税と住民税から原則として全額が控除される制度です。原則、確定申告が必要です。収入や家族構成などに応じて、控除額には一定の上限がありますのでご注意ください。

★お申し込み方法★

- (1) パソコンからのお申し込み。
 - ふるさとチョイス → 志摩市のページをご覧ください。
 - 楽天ふるさと納税 → 志摩市のページをご覧ください。
 - 市ホームページ → バナーをクリックしてお進みください。
- (2) その他の場合は、下記問い合わせ先へご連絡ください。

★その他★

寄附金額(5,000円以上から)に応じて、様々な特産品等をご用意しています。なお、特産品等は辞退することも可能です。

●問い合わせ先●

志摩市役所 総合政策課 ふるさと納税担当
TEL: 0599-44-0205
FAX: 0599-44-5252

志摩びとの会 会員取材レポート

会員No.660 梅田 正規 さん
～磯部小学校にて稲作体験学習～

耕作放棄地を活用してオクラや芋等の畑を耕作している、磯部町出身の梅田正規さんの活動をご紹介します。

梅田さんは、親戚の吉田三郎さんが二十数年前から手掛けた志摩市立磯部小学校の稲作体験学習を受け継ぐ形で、約5年前から同校にて小学5年生を対象に稲作体験学習を行っています。

体験学習は田の畔付けから始まり、田植え、稲刈り、脱穀、餅つき、あられ作り、そしてあられ煎りと、4月から翌年3月まで1年をかけて行います。



今回は毎年10月に行われる、昔の農機具「干歯扱き」「足踏み脱穀機」「唐箕(とうみ)」を使った脱穀作業の体験学習を取材させていただきました。

梅田さんから児童に対し、米作りの大変さや楽しさ、そして食べ物への感謝の気持ちを持つことの大切さを伝えるなど、子ども達にとって貴重な体験となりました。

まち歩きガイドツアー会社 「遊ばんせ」が設立されました!



市では、有償のガイド業という「しごとの創出」をめざし、ガイド業に対する関係者の理解を深め、志摩市の多様な自然や文化、地域ごとの街並みや暮らしなどを題材にしたガイドツアーという旅行商品を企画、販売することが出来る人材を養成するための講座を平成28年度から実施してきました。

この養成講座の受講者5名により「合同会社 遊ばんせ」が平成30年3月に設立されました。鶴方地区や浜島地区のまち歩きを中心としたガイドツアーを展開しています。

合同会社 遊ばんせ
TEL・FAX: 0599-52-1230
MAIL: asobanse@gmail.com



「シニコボシ」はなあ、毎年六月の天王祭のおりに「カワコボシ」どもが、日本中を探し回って、子どもの青肝をしりから抜きとって、三つを天王に差し上げることになっておったからじゃ。

青肝というものは誰にでもあるものじゃない。

それはなあ、志摩の村々の女の人たちが、物を頭にいたいて運ぶのによく使われていたもので、ワラで太い縄に編んだものを輪にして、それを布に巻いて作った台座というものがあつてのう。その台座を何かに放ちちらかして置いてくると、何日かたつて草の種が落ちて芽が生え、それを知らずに食べた者にだけ青肝が腹の中に育つのであ。

「カワコボシ」は、その草を食べた子どもを見つければ、青肝をしりから抜きとるということじゃ。

今でも子どもらが海水浴を長くしている「ソヤ」『シニコボシ』にしりを抜かれて肝をとられるぞ」とおどして早く海からあがらせ、家へ帰らせることにしとるんやで。

むかし片田村じゃあ、河童のことを「カワコボシ」といってた。このカワコボシのことを、または「シニコボシ」ともいうとった。

「シニコボシ」はなあ、毎年六月の天王祭のおりに「カワコボシ」どもが、日本中を探し回って、子どもの青肝をしりから抜きとって、三つを天王に差し上げることになっておったからじゃ。

青肝というものは誰にでもあるものじゃない。

それはなあ、志摩の村々の女の人たちが、物を頭にいたいて運ぶのによく使われていたもので、ワラで太い縄に編んだものを輪にして、それを布に巻いて作った台座というものがあつてのう。その台座を何かに放ちちらかして置いてくると、何日かたつて草の種が落ちて芽が生え、それを知らずに食べた者にだけ青肝が腹の中に育つのであ。



H29
9月

国指定重要無形民俗文化財である「鳥羽志摩の海女漁の技術」。その担い手である本物の海女さんを撮影することができる「志摩フォトフェスタ2017」が御座白浜周辺で開催されました。晴天に恵まれた会場には多くのカメラマンが訪れ、白い磯着の海女の姿を撮影していました。



H29
12月

平成29年12月16日に国府地区公民館で、かつて阿児町国府地区に築かれていた「国府城」について、三重県内の城郭調査をされている伊藤徳也(いとくとくや)先生(飯南高等学校校長)の講演と現地解説が行われました。県内には1,000を超える中世の城跡があるというお話や、志摩市内に残る城跡の特徴について講演が行われ、その後国府城跡へ移動し実際に土塁や堀を見ながら解説が行われました。



H30
4月

志摩スペイン村を発着点とするマラソン大会「志摩ロードパーティ」が開催され、6,466人の参加者がエントリーしたそれぞれの種目でゴールを目指しました。未明からの激しい雨と風はスタート時には止み、沿道やエイドステーションからの声援を受けながら、参加者は風光明媚なコースを駆け抜けました。



H30
5月

平成30年3月27日の官報告示で登録された「旧猪子家住宅主屋・土蔵・門柱」の登録証伝達式を行いました。住宅の再生に携わった、東原達也さん、東原大地さん、六浦基晴さん、左寿晋吾さんが見守る中、所有者の竹内和彦さん、千鶴さん夫妻に、登録証とプレートが手渡されました。竹内さんは、今後はこの住宅を様々な交流の場にしていくと笑顔で語っていました。



H30
7月

異文化理解を深め、地域活性化および国際理解の促進につなげることを目的に、アメリカサンフランシスコ近郊在住の小学生を対象としたサマーキャンプが開催されました。真珠取り出し体験やシーカヤックなど志摩ならではのプログラムを楽しんだほか、浜島小学校での学校交流やホームステイなどとおして、参加した児童は志摩市の歴史・文化・自然の魅力を感じました。



H30
8月

志摩市から、世界へトビタテ！
志摩の未来を担う
若者の留学応援プロジェクト

8月1日より、志摩の未来を担う若者の留学応援プロジェクトを開始しました。当事業へのクラウドファンディング型ふるさと納税を通じた応援をお待ちしています！「ふるさとチョイス」で募集しておりますので、詳しくはホームページをご覧ください。



H29
10月

今回は台風の影響で28日のみの実施となりましたが、約1,000人が参加しウォーキングを楽しみました。

日本でも有数のリアス海岸が作りだす風光明媚な伊勢志摩の里海や自然景観、多くの史跡が残る歴史文化を肌を感じ、世代を超えて仲間と出会い、ふれあいを楽しみながら歩くスポーツ交流の祭典「伊勢志摩ツーデーウォーク」が開催されました。

平成16年10月に旧志摩郡5町(浜島町・大王町・志摩町・阿児町・磯部町)が合併して誕生しました。

市の全域が伊勢志摩国立公園に指定され、英虞湾、的矢湾などのリアス海岸ならではの奥深い内湾をはじめ、黒潮が流れる太平洋や神宮林を含む森林など雄大な自然のなかで人々の暮らしが生まれ、発展してきた地域です。

この美しく豊かな自然に恵まれた志摩市での出来事をピックアップしてお伝えします。



H30
6月

今回で9回目となる志摩パークゴルフ場杯パークゴルフ大会が開催されました。この日は70人の皆さんが参加し、美しい国府白浜を眺めながら最高のロケーションで、パークゴルフを楽しみました。



H29
11月

志摩市商工会館で、県立水産高校と県立志摩高校の皆さんによる「水高・志摩高フェスタ」が開催されました。この事業は、両校の生徒が日ごろの活動を地域へ発信して活性化することを目的に行われたもので、当日は生徒による成果発表や作品展示、ステージイベントなどが行われ、会場は子どもから高齢者の方まで幅広い年代の皆さんで賑わっていました。



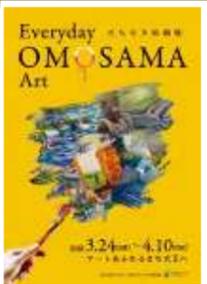
H30
1月

有人離島である間崎島にて、三重県立志摩病院の巡回診療が開始されました。島の高齢化率は約80%にも達し、島外への通院が難しい住民もいるなかで、平成29年3月に実施された三重県知事による「すごいやんかトーク」において、島民の皆様からの要望を受け、実現に至りました。



H30
3月

市では、東北大学と連携し、将来にわたり持続可能な心豊かな暮らしをデザインする「ライフスタイル変革プロジェクト」を実施しています。このプロジェクトに参加する大王町波切地区の10代から40代で構成された市民グループにより「絵かきの町」らしくアートに囲まれた活気あふれるまちづくりを目指して「Everyday "OMOSAMA" Art」と題した絵画展が3月24日から4月10日まで開催されました。"OMOSAMA"(おもさま)とは"たくさん"を意味する波切の方言で、タイトル通り70点を超える作品が波切地区のいたるところに展示されました。



H30
2月

賢島宝生苑にて「平成30年 志摩市三十路式」が開催されました。「志摩市三十路式」は、30歳という節目に、10年前の成人式の時とは違う社会経験や過ごしてきた環境を踏まえ、故郷を想い、これからの人生や未来を考えるイベントとして志摩市三十路式実行委員会が開催しています。4回目となる今年は、初の企画として竹内市長とのトークセッションを行い、次代を担う決意を固めました。